

『理不尽と戦っていた学生時代』



「恥」に悩んで自分を探した小学生時代

幼少期から周りをよく見るタイプだったと思います。保育園があまり好きな場所ではなかったのですが、いわゆる「お受験」をする家庭が代代的、地域的に多くて、やらされている感じの雰囲気落ち着かなかったのだと思います。小学校に入ると周りの雰囲気も後押しし、低学年の時はのびのび楽しく好きなことをやっていました。

少し変化があったのは、小学校高学年の頃からです。これは最近自覚したことなのですが、実はそのころから自分のお弁当を作っていて、給食の無い小学校で、周りは皆お弁当を食べているのに自分が用意できないことが嫌だと感じていたのがきっかけでした。そのほかにも、**家とか自分と周りの環境が違うことを「恥」だと感じるが多くなって**、自分の家がどんな状態なのか、何が必要なのかを徹底的に探っていました。その中で、洗濯も掃除も自分でやろうと思って、木材の加工なんかもやっていました。今考えると怖いもの知らずだと思いますが、良いことも悪いことも新鮮に映って取り組んでいたのだと思います。「恥」が「恥」でなくなったのは、「洗濯や掃除などができているうちは大丈夫」と思えるようになってきてからだと思います。

興味関心の広がり、周りとの違いが見え始めた中学校時代

中学校に入ると、**少しずつ自分が何者かが見えるようになってきたように思います**。何が好きで、何が今やりたいことなのか。自分がやりたいことをやることが増えました。一方で男女問わず自分と考えが合わない人たちもいることもわかってきました。クラスで仲間外れにされることが多かった子とも、共通の好きなことがあったからよく話をしていました。正義感とかではなくただ楽しかったからです。そのうち仲間外れのターゲットが自分に移ることもあり、その都度応戦をしていたのを覚えています。コロナ禍で高校の登校開始時期が遅れたこともあり、不毛なやり合いは進学とともに自然と消滅していきましたが、気の合う人と話すことの大事さを学んだ時期でもありました。

限界を知って対策を始めた中・高校時代

中学時代は勉強にあまり興味が持てず、好きなことばかりやっていたので成績が下がった時期でもあり、先生から呼び出しを受けることがありました。結果としてこれを機に勉強にも取り組むのですが、やってみると意外と面白い。毛嫌いしていた数学もとりあえずやってみることを習慣化してみて、いちど掘り下げると仕組みや面白さがわかって、納得するまでずっと取り組んでいました。

そうすると今度は**のめりこんだ物ばかりに自分では取り組んでしまうので、TEENSでは勉強や予定の抜け落ちている部分がないかを中心に相談していました**。そこからは、優先順位をつけたり、予定を整理したり、抜け漏れが少ないような管理術を身に着けて行くことにも取り組んでいます。

高校に入ってから科目数が急激に増えたこともあり、課題に追われる日々を送るようになりました。特に化学の授業の先生が厳しく、毎週2つレポートを出さなければいけませんでしたが半分くらいは出すことができず、先生からよく注意を受けていました。成績は何とかなったので良かったのですが、この経験が**自分に取り組める量やスピードの限界があることを知り、大学進学時には合理的配慮を受けようと思ったきっかけとなりました**。

勉強をすること自体は楽しかったので、興味の範囲としては物理、化学の分野まで広がり、指定校で受けた大学受験の専門領域にもつながっています。

TEENS後輩へ一言

世の中理不尽なことも多いですが、その時の最善の策を考えてみて下さい。

A.Tさん 小中高一貫校⇒私立大学（工学部）

利用時期：小6～高3 参加プログラム：週1日の個別セッション

TEENSで行っていたこと：スケジュールや提出物の管理術／進路相談

長所：好奇心を持って何事でも面白いことを探求していくところ

過去の自分に一言：世の中理不尽なことも多いですが、負けないでください。
